

論文要旨

I 研究の背景

近年、女性のライフスタイルが多様化し、少子化および、出産の高年齢化が問題となっている。35歳以上の母体からの出生数の割合は、2008年の全出生数中20.0%に達している。その割合は、今後も増加していくことが予測されている。母体が高年齢であることはハイリスクの一因とされ、高年齢妊娠・出産の身体的リスクの対応に関して、論じられることが多い。しかし、高年齢初産婦の心理面に関して詳しく論じているものは少ない。このため、身体的リスクに目を向けるばかりではなく、健康な高年齢初産婦が妊娠中にどのような体験をしているのか、その体験を明確にする必要があると考える。

II 研究目的

健康な高年齢初産婦が、妊娠中にどのような体験をしているのか、その体験を、妊婦自身の語りにより質的記述的に明らかにすることである。それにより、健康な高年齢初産婦に対する理解を深め、求められるケアの示唆を得ることを目的とする。

III 研究方法

信越地方P市2か所の産婦人科医院を受診する、自然妊娠をした35歳以上の初産婦で、インタビュー時に妊娠後半期にあたり、妊娠経過に異常がみられず、合併症を有しない妊婦7名を対象とした。各人の2～3回のインタビューにより得られたデータを質的帰納的に分析した。データ収集は非構造化面接で行い、分析方法は現象学的アプローチを用いた。

IV 結果

7名の健康な高年齢初産婦の妊娠期の体験は、妊娠期のみ限定されず、就職や結婚から妊娠期までの経過、そして育児期に至る広がりのあるものであった。その結果、8つの特徴が見出された。

1. 妊娠の喜びと、授かったことへの感謝の気持ちを持つ
2. 無事に経過する確証がなく、この妊娠を大事にしたいと思う
3. 妊娠を機に仕事に折り合いをつけていく
4. どんな子が生まれてきても引き受ける覚悟をする

5. 仕事への比重が大きい生活で、自分の身体と向き合えない
6. 子育ての大変さを想像して、不安を抱いている
7. 女性が働き続けるために、職場に対し意見を持っている
8. プラスの面に目を向けて、不安な気持ちを乗り越えていく

V 考察と看護への示唆

健康な高年齢初産婦の特徴的な体験は、産むのは今しかないと決意し、この妊娠を大事にしたいと願っていた。しかし、仕事を手放したくないと葛藤しながら、仕事と折り合いをつけ、どんな子が生まれてきても引き受ける覚悟をしている妊娠であることが明らかになった。

健康な高年齢初産婦を理解するための看護の示唆として、以下のことが得られた。仕事と折り合いをつけていくプロセスを知り、その決定を尊重することが必要である。どんな子でも引き受ける覚悟をしている妊娠であることを理解し、夫婦の意思決定を見守り、支えていく体制を整えることが求められる。健康に働き続けることができるように、妊婦自身が自分の身体と向き合うように支援し、職場への啓発も必要である。高年齢のプラスの面に注目することは、健康な妊娠生活を強化することにつながる。